

学校编码：10384
学号：201103008

分类号____密级____
UDC____

厦 門 大 学

硕 士 学 位 论 文

冈仓天心的中国考察和中国认识
——以东方主义为中心

岡倉天心の中国考察と中国認識

——オリエンタリズムの立場から

肖 珊 珊

指导教师姓名： 吴 光 辉 教 授

专 业 名 称： 日 语 语 言 文 学

论文提交日期： 2014 年 4 月

论文答辩时间： 2014 年 5 月

学位授予日期： 2014 年 6 月

答辩委员会主席：_____
评 阅 人：_____

2014 年 月

冈仓天心的中国考察和中国认识——以东方主义为中心

肖珊珊

指导教师：吴光辉教授

厦门大学

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

（ ） 1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

（ ） 2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

「天心はあつかいにくい思想家であり、また、ある意味で危険な思想家でもある。」かつて日本思想家の竹内好が書いたことがある。たしかに、アジア主義者として出立する岡倉天心は、『東洋の覚醒』(1901－1902)、『東洋の理想』(*The Awakening of the East*) (1903)、『日本の覚醒』(*The Awakening of the Japan*) (1904)、『茶の本』(*The book of Tea*) (1906) という四冊の代表作、いわば「英語著作群」を出版させたもので世界中によく知られているが、『東洋の理想』の冒頭、“Asia is one”(「アジアは一つである」)と書き出されているこの言葉は、太平洋戦争の時代には、日本帝国主義の「大東亜共栄圏」という思想を端的に、しかも詩的に代弁するスローガンとして利用された。それゆえに、岡倉天心は「大東亜共栄圏」の主張者、代弁者であるように理解されている。

このような「謎」に満ちた人物を、如何にして理解すべきであろうか、本論では、一中国人の立場から、岡倉天心という人物の中国考察と中国認識を対象に、近代日本の知識人が如何なる立場から、如何にして中国のことを理解し、解釈したかを明らかにし、その背後に隠された西洋の現代性(モダリティー)の問題を論述しようとする。

詳しく言えば、序論として、まず岡倉天心とは誰かという主題のもとで、天心の生涯における美術的・文化的という二つの志向から、天心の独自の性格を指摘する。それから、日本、中国における岡倉天心の先行研究を踏まえ、本論の問題提起、研究方法、章立てを提出する。

第一章「旅行者としての岡倉天心」において、岡倉天心の心における「東洋・西洋」の構造、「アジアは一つ」といった思想がどのように形成されたか、というような「覚醒」の問題を念頭に置き、岡倉天心のインド、アメリカ、それから中国の旅をそれぞれ考察し、比較文化の立場から天心の「覚醒」の手がかりを求めようとする。

第二章「中国文明の批評者としての岡倉天心」において、岡倉天心の中国旅行に基づき、南方・北方の文化的考察、中国美術の考察、茶を中心とする中国

文化の考察という三つの主題に絞り、岡倉天心の中国認識あるいは中国印象を明らかにする。

第三章「東洋の提唱者としての岡倉天心」において、近代日本の知識人によるアジアの認識から、岡倉天心による中国、インド、日本の「言説」、それから「アジアは一つである」という理念の提出に至るまで、現代性（モダリティー）の批判という立場から、岡倉天心の理想——「東洋の覚醒」はいったい何であろうか、という問いを考え直しようとする。

結論として、岡倉天心の「身分」、言い換えれば、世界の旅行者、西洋の批評者、東洋の提唱者というように、岡倉天心の位置づけを改めて樹立させようとする。そのみならず、同時代の日本知識人の中国考察をも比較の対象にし、岡倉天心の中国考察・中国認識の独自性、さらにその意義を考え直す。

キーワード： 岡倉天心 中国考察 中国認識

摘要

日本思想家竹内好曾经这样评价冈仓天心：“天心是一位难以定论的思想家，在某种意义上说，又是一位危险的思想家。”的确，作为亚细亚主义者的冈仓天心，出版了《东洋的觉醒》（1901-1902）、《东洋的理想》（*The Awakening of the East*）（1903）、《日本的觉醒》（*The Awakening of the Japan*）（1904）以及《茶之书》（*The book of Tea*）（1906）等四部代表作，可以说他是因出版了“英语著作群”而被世界所熟知。在《东洋的理想》一文中，开篇就提到“Asia is one”，即“亚洲是一体的”这一思想。它在太平洋战争时期，被日本帝国主义的“大东亚共荣圈”的口号所利用。因此，冈仓天心被认为是“大东亚共荣圈”的主张者和辩护者。

这样一个充满神秘色彩的人物，究竟应该如何理解？本文将从一个中国人的立场、以冈仓天心的中国考察·中国认识为对象，来阐明近代日本的知识分子是从何种立场，如何理解中国、阐释中国的。并论述隐藏于其后的“西洋的现代性”问题。

具体来说，作为绪论，首先基于“冈仓天心是何人”这个主题，从贯穿于冈仓天心一生的美术、文化两大志向来阐释冈仓天心独特的性格。其次，基于日本、中国对冈仓天心的先行研究，提出本文的问题意识、研究方法和章节。

第一章是作为旅行者的冈仓天心。本章节将重点把握冈仓天心心目中“东洋·西洋”的构造、“亚洲是一体的”思想的形成过程等有关“觉醒”的问题意识。逐一考察冈仓天心的印度、美国以及中国之旅，从比较文化的立场寻找天心“觉醒”的线索。

第二章是作为中国文明批评者的冈仓天心。本章节将基于冈仓天心的中国旅行，从南北的文化考察、中国美术的考察以及以茶为中心的中国文化的考察三大主题，阐明冈仓天心的中国认识或者说是中国印象。

第三章是作为东洋提倡者的冈仓天心。本章节将从近代日本知识分子对亚洲的认识到冈仓天心对中国、日本、印度的“言说”再到“亚洲一体论”的思想的提出，用“现代性批判”的方法重新审视冈仓天心的思想——“东洋的觉醒”究

竟为何？

作为结论，对于冈仓天心的身份，将基于世界的旅行者、西洋的批判者、东洋的提倡者等，重新树立冈仓天心的位置。不仅如此，还将同时代的日本知识分子的中国考察作为比较的对象，重新审视冈仓天心的中国考察・中国认识的独立性以及其意义。

关 键 词： 冈仓天心 中国考察 中国认识

厦门大学博硕

目 次

要 旨	I
序 論	1
1.1 岡倉天心とは誰か	2
1.2 本論の先行研究	3
1.3 本論の問題提起、研究方法、章立て	6
第一章 旅行者としての岡倉天心	8
2.1 欧米への旅	9
2.2 インドへの旅	10
2.3 中国への旅	12
2.4 まとめ	14
第二章 中国文明の批評者としての岡倉天心	17
3.1 文化・風土の考察	17
3.1.1 北部：儒家政治	18
3.1.2 南部：老子思想	21
3.2 美学芸術の考察	23
3.2.1 中国美術の考察	24
3.2.2 鏡の考察	26
3.3 茶道の考察	28
第三章 アジアの提唱者としての岡倉天心	31
4.1 東洋と西洋	31
4.1.1 福沢諭吉と「脱亜論」	32
4.1.2 徳富蘇峰と日本の「膨張」	34

4.2 亜細亜の内部——インド・中国・日本	37
4.2.1 インドと中国——「分裂」の国家	38
4.2.2 日本——「亜細亜」の文明の博物館	40
4.3 “Asia is one”という理念と批評	43
4.3.1 「Asia is one」と東洋の理想	43
4.3.2 「アジアが一つである」をめぐる時代の批評	45
結 論	48
参 考 文 献	51
謝 辞	55

目 录

摘要	I
序论	1
1. 1 冈仓天心是谁	2
1. 2 先行研究	3
1. 3 研究方法和本论构成	6
第一章 作为旅行者的冈仓天心	8
2. 1 欧美之旅	9
2. 2 印度之旅	10
2. 3 中国之旅	12
2. 4 小结	14
第二章 作为中国文明批评者的冈仓天心	17
3. 1 文化风土的考察	17
3. 1.1 北方：儒家政治	18
3. 1.2 南方：老庄思想	21
3. 2 美学艺术的考察	23
3. 2.1 中国美术的考察	24
3. 2.2 镜子的考察	26
3. 3 茶道的考察	28
第三章 作为“东亚”诠释者的冈仓天心	31
4. 1 东洋与西洋	31
4. 1.1 福泽谕吉与“脱亚”	32
4. 1.2 德富苏峰与日本的“扩张”	34
4. 2 亚洲的内部——印度、中国、日本	37

4. 2.1 印度与中国——“分裂”的国度	38
4. 2.2 日本——亚洲文明的博物馆	40
4. 3 “Asia is one”的理念与批评	43
4. 3.1 “Asia is one”与东洋的理想	43
4. 3.2 “亚洲是一体”的批评	45
 结论	 48
参考文献	51
致谢	55

厦门大学博硕士

序 論

明治 34 (1901) 年、一人の日本青年が故国を離れ、インドへ旅立った。インドでタゴール家や反英運動の青年たちと交流し、「アジア」の運命を考えたこの青年は、*The Ideals of the East*『東洋の思想』という本を書き上げ、ロンドンから出版されることになった。扉には、「本書は生粋の日本人が英文で書いたものである。」と記されている。

この青年——岡倉天心 (1863–1913) によって著された書は、冒頭、“Asia is one” (「アジアは一つである」) と書き出されている。この言葉は、太平洋戦争の時代には、日本帝国主義の「大東亜共栄圏」という思想を端的に、しかも詩的に代弁するスローガンとして利用された。言うまでもなく、天心自身は想像もしていなかったことである。^①

「天心はあつかいにくい思想家であり、また、ある意味で危険な思想家でもある。」^②かつて日本思想家の竹内好が書いたことがある。たしかに、アジア主義者として出立する岡倉天心は、『東洋の覚醒』(1901–1902)、『東洋の理想』(*The Awakening of the East*) (1903)、『日本の覚醒』(*The Awakening of the Japan*) (1904)、『茶の本』(*The book of Tea*) (1906)^③という四冊の代表作、いわば「英語著作群」を出版させたもので、世界中によく知られているが、「大東亜共栄圏」の主張者、代弁者であるように理解されている。

このような「謎」に満ちた人物を、如何にして理解すできであろうか、本論では、一中国人の立場から、岡倉天心という人物の中国考察と中国認識を対象に、近代日本の知識人が如何なる立場から、如何にして中国のことを理解し、解釈したかを明らかにし、その背後に隠された西洋の現代性 (モダリティー) の問題を論述しようとする。

^①木下長広. 英語でアジアと日本の運命を考えた思想家——岡倉天心——[A]. 藤田正勝. 日本思想を学ぶ人のために[C]. 京都：世界思想社、1997、第 221 頁。

^②岡倉天心. 岡倉天心全集第 5 巻[M]. 東京：平凡社、1979、第 475 頁。

^③岡倉天心. 岡倉天心全集第 1 巻[M]. 東京：平凡社、1980、第 475–493 頁。

1.1 岡倉天心とは誰か

岡倉天心の研究者と言えば、まず『詩の迷路——岡倉天心の方法』（学芸書林、1989）を出版した木下長宏が代表的研究者として挙げられる。岡倉天心とは誰か、まず木下氏の執筆した岡倉天心の「略歴」を参考にすることにする。

岡倉天心（覚三）は、旧暦文久二年十二月二十六日（一八六三年二月十四日）に生まれた。一八八〇（明治一三）年に東京大学を卒業後、文部省に勤務、東京美術学校設立の準備にたずさわる一方で、フエノロサらとともに、全国の古美術調査を行う。一八八八（明治二一）年、東京美術学校の開設に伴い、同校校長として若い画家や工芸家の育成に精進。東京・京都・奈良の国立博物館設立にも尽力し、帝国博物館理事および美術部長の任につく。美術学校からは、横山大観、菱田春草ら、のちの日本画界の中心人物となる画家が育ち、彼らは卒業と同時に、東京美術学校の教師となった。一八九三（明治二六）年、中国へ旅行。奥地を踏破し美術調査の成果を上げる。一八九八（明治三一）年、美術学校の内紛により校長を辞職。同時に博物館美術部長等の一切の公職から退く。岡倉の辞職に伴い同校教員の多くが連袂辞職を申し出、辞職組と協力して、その年の秋、日本美術院を設立した。その組織がのちの院展の母体となる。新しい日本絵画の理想を揚げた日本美術院はしかし、経営が行きづまり、大観や春草の試みは「朦朧体」と非難されて世評の支持を得られなかった。美術院の苦境を抱えながらも、岡倉は一九〇一（明治三四）年、一年間に及ぶインド旅行に出かける。その間『東洋の理想』を英文で執筆、イギリスから出版される。帰国後の一九〇四（明治三七）年、大観や春草を伴って渡米。ボストン美術館東洋部顧問の職を得、以後、没するまでの十年間、アメリカと日本を往還する生活が始まる。在米中に『日本の覚醒』、『茶の本』などの著作（いずれも英文）を刊行する一方、ボストン美術館東洋部の充実整備に奔走。日本へ帰れば、茨城県五浦に土地を購入、日本美術院の再建を企てたり、文展の審査員を務めたり、日本画の新動向発展に力を尽した。一九一三（大正二）年没。享年五十一歳。^①

^①木下長広、英語でアジアと日本の運命を考えた思想家——岡倉天心——[A]. 藤田正勝、日本思想を学ぶ人のために[C]. 京都：世界思想社、1997、第208-209頁。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士